

キーワード: 自己教育力 保健科教育 新規健康課題

1. 研究の背景

近年の都市化、少子高齢化、情報化、国際化などは、社会や生活に大きな影響を与えており、子どもを取り巻く健康課題にも影響が広がっている。数ある健康課題の中でも、薬物乱用は、身近な健康課題の1つであり、これまでも、学校教育で取り上げられていたが、危険ドラッグのような新たな問題が出現している。また、食物アレルギーや児童虐待、デング熱などの新たな健康課題(新規健康課題)も注目されてきている。中央教育審議会答申(2001)では、優れた教師が備えるべき資質・条件の1つとして自己教育力が上げられている。自己教育力とは、自ら学び自己を成長発達させていく力であり、学習への意欲、学習の仕方の習得、生き方の探求の3つの要素で構成されている。教育職員養成審議会の第一次答申(1997)では、新時代の教員に求められる資質・能力として、「継続的な自己教育力」が挙げられている。保健体育科を担当する教員は、時代とともに出現する新規健康課題に関して主体的、自主的に学習していく自己教育力を育成していくことが必要となる。今までの研究では、保健体育を専攻している学生や、保健体育科教員を対象とした保健学習に対する意識の研究がされているものの、自己教育力や新規健康課題との関係をみる研究は、ほとんど行われていない。

2. 研究の目的

本研究では、教員養成課程において、保健体育科教員の免許取得を希望する学生を対象として、1)自己教育力の実態、2)自己教育力と保健科教育の興味関心、新規健康課題の知識・関心との関連性、3)新規健康課題に関する知識や関心と保健科教育の興味関心との関連性を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、地方国立大学の教育学部で、保健体育科教員の免許取得を希望する2年生から4年生の学生を対象とし、2014年11月に質問紙調査を行った。質問紙では、文部科学省や厚生労働省の答申を参考に、新規健康課題(デング熱、危険ドラッグ、児童虐待、食物アレルギー)に関する知識、指導意欲、関心等の回答を得た。また、保健科教育の興味関心(健康に関するテレビの視聴・本を読む・健康に関する情報をインターネットで得る、健康に関する新聞記事やテレビ番組を教材化しようとする頻度)についても回答を得た。自己教育力についての質問は、小山らの研究で開発された、教師の自己教育力測定項目から抽出された8因子を参考に作成した。質問紙は、全47項目を、専門性向上努力(8問)、自律的実践力(4問)、同僚志向(3問)、自己変革意欲(4問)、生徒志向(2問)、他者受容性(3問)、広い視野・柔軟性(2問)、現状充足感(2問)、その他(9問)で構成し、各質問には、4件法を用いた。データの分析では、2年生(以下、2年生群)と、3・4年生(以下3・4年生群)のデータで2群に分けたものと、自己教育力の平均得点より得点が高い群と低い群のグループで2群に分けたデータ、新規健康課題の知識の平均得点より得点が高い群と低い群で2群に分けたデータを用いて、Mann-WhitneyのU検定とSpearmannの相関分析で検定した。

4. 結果と考察

調査当日の欠席者、回答に不備があったものを除く、60名(男子38

名、女子22名)を分析の対象とした。

1)自己教育力の実態

各項目の合計得点の平均では、自己変革意欲以外の項目で、3・4年生群が2年生群を上回った。分野別では、一番得点が高い項目は、2年生群と3・4年生群ともに「自己変革意欲」であった。一方、一番得点の低い項目は、2年生群では、「専門性向上努力」で、3・4年生群では、「専門性向上努力」と「現状充足感」であった。しかし、自己教育力の得点は、学年間で有意な差が認められなかった。

2)自己教育力と保健科教育の興味関心、新規健康課題に関する知識・関心との関連性

自己教育力が高い群は、保健科教育の指導に関する興味関心、健康に関する情報をインターネットで得る、健康に関する新聞記事やテレビ番組を教材化しようとする、健康に気を遣う、健康について考えることがある、の項目で自己教育力が低い群より有意に得点が高かった(表1)。このことから、自己教育力が高い学生は、保健科教育への関心も高いことが示唆された。また、自己教育力の多寡と新規健康課題の知識の多寡とは、有意な差が認められなかった。しかしながら、デング熱($p=0.014$)、児童虐待($p=0.039$)、危険ドラッグ($p=0.047$)の学習経験があるものは、自己教育力の得点が高いことが明らかになった。

表1:自己教育力と保健科教育に関する項目の得点との比較

	自己教育力が高い (n=31)	自己教育力が高い (n=29)	P値
興味関心	3.1±0.6	2.7±0.8	0.030
インターネットの利用	2.7±0.8	2.3±0.8	0.032
教材化	2.9±0.8	2.4±0.8	0.031
健康に気を遣う	3.0±0.5	2.6±0.7	0.019
健康について考える	3.4±0.8	3.0±0.6	0.016

3)新規健康課題の知識や関心と保健科教育の興味関心との関連性

新規健康課題に関する知識が高い群は、保健科教育の興味関心($p=0.04$)と健康に関するテレビの視聴($p=0.034$)の項目で有意に得点が高いことが認められた。このことから、新規健康課題に関する知識が高い群は、その知識をテレビの視聴から入手している可能性が示唆された。

上記の結果から、自己教育力及び保健科教育に関する興味関心が、新規健康課題の知識の獲得に繋がっていない可能性が示唆された。

5. 結論

本研究の調査の結果、自己教育力が高い学生ほど、保健科教育の興味関心が高いことと、新規健康課題の学習経験が豊富であることが明らかになった。また、新規健康課題の知識が豊富な学生ほど、保健科教育に関する興味関心が高いことが明らかになった。しかし、自己教育力の多寡と新規健康課題に関する知識の多寡の間には、有意な関連性は認められなかった。さらに、保健体育教員の免許取得を希望する学生の、自己教育力および保健科教育に関する興味関心が、新規健康課題の知識の獲得に繋がっていない可能性が示唆された。

上記の結果より、将来、保健科教員を目指す学生に対しては、教員養成課程で提供する保健科教育の指導法演習等の中で、新規健康課題に関する学習機会を提供すること等が必要となると考えられた。